

# 公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

## 「震災から節目の年 県下公民館ここに集結」

新潟市・鈴木 利樹

4.5

- 2 トピックス 「白戸 洋 (松本大教授) 講演・研修会開催される」
- 3 視点 「住民参画による公民館づくり」 村上市・小川 勲
- 3 ひろば 「歌をとおして」 燕市・磯田千恵子
- 6 実践記録シリーズ 「つながり」を大切にした Tap の活動 NPO 法人 Tap
- 7 サークル交流 「一人ひとり みんな違ってそれがいい♪」 (柏崎市) / 「自由に描く心絵」 (刈羽村)
- 7 素顔拝見 笹川 智子さん (新潟市) / 橘 芳延さん (弥彦村)
- 8 お元気ですか 「會津八一に魅せられて」 胎内市・中野 隆一さん
- 8 惠贈資料紹介 ネットワーク



「自然教室 (守門公民館)」 (魚沼市)

表紙解説

県立浅草山麓エコ・ミュージアム遊々の森での自然教室。森を散策し、動植物を観察して、自然に親しみました。

# 白戸 洋 (松本大教授) 講演・研修会開催される

県立生涯学習推進センター主催の「コミュニケーションリリーダ研修会」が9月9日(火)に同推進センターで開催されました。研修会は「公民館から始まる まちおこし」をテーマに県内から公民館関係者が50名集まり、一日研修を行いました。

講師は、本紙9月号特集に特別寄稿された松本大学・白戸洋教授で、終始、軽妙な語り口やわかりやすい解説が参加者から好評でした。(参加者アンケートから)



熱弁・白戸 洋 講師

事務局長が研修会に終日参加をしましたのでレポートします。

一日の研修プログラムは  
〔午前〕

講義「公民館で地域がよみがえる」

学習的手法による、信州・松本からの発信

〔午後〕

「ワールドカフェ」

講師の白戸先生は松本市を中心に各地の集落の活動に参加したり取材をするなど、ふだんから松本大学の学生と実践活動をしていて、講義ではその実践例が随所に示されて大変わかりやすい内容でした。

午前中2時間にわたり、公民館の現状を解説し、これからの公民館活動に必要なことは「その活動が地域づくりにつながっていること」と明言しました。

例として、松本市の公民館役員研修会の議論をあげ



「いまみたいな公民館はいらない」

「でも公民館みたいなものは必要だ」

という声があったのは、地域の拠点や居場所としての役割が大きいといえるという解説も納得しました。

昼食を挟んで、午後は5人6人グループに分かれてのワールドカフェでした。

参加者の多くが現職の公民館職員で、カフェは最初から賑やかで熱気を帯びたものになりました。

ワールドカフェ(グループワーク)は自由な意見を尊重しますので、公民館職員で手法に慣れていることもありどのグループも意見百出でした。

「新しい公民館、人が集まる公民」というテーマは現職公民館職員が日ごろから課題として考えていることなので、用意された意見集約用の大洋紙はまたたくまに埋められました。2時間後にグループの発表。おもしろいアイデアがたくさん出て、拍手



喝采、賑やかな発表になりました。

終わりの30分では、白戸先生がすべてのグループにコメントを付けて講評し、研修会のまとめをして終了しました。



大変中身の濃い研修会で、参加者から満足という声アンケートに多くありました。

白戸先生は、終了後、一休みするまもなく、夕方からの松本市の研修会に参加するため推進センターから帰られました。お疲れ様でした。

(田原)



# 視点

## 「住民参画による 公民館づくり」

村上市 荒川地区公民館長 小川 勲



公民館は戦後六〇余年常に、学校と共に代表的な教育機関として日本の地域社会でその役割を担ってきた歴史がある。その背景には公民館こそが地域住民の拠り所であり、交流の場であるという住民の強い願いが存在していた。まさにその地域住民の願いと共に公民館は歩んできたのであり、これからも歩んで行かなければならないはずである。

しかし昨今、公民館を巡る状況は厳しく、行政改革、規制緩和、地方分権等の動きの中で、予算・人員の削減、職員体制の変化等を余儀なくされている。「今、公民館が危ない」と言われるゆえんである。

村上市の地区公民館では、平成二十四年度から、公民館

の運営について、評価・助言を主とするこれまでの公民館運営委員会から、事業の企画運営にまで関わる事が出来る「公民館運営協力員」に制度替えした。

その結果、一〇回講座「百人一首」や、定期的な「クラブ作品展示」が協力員の手で立ち上げられた。これらの活動を通して、住民ニーズの把握や協力員としての地域課題への意識の向上という効果も見られるようになってきた。

地域住民との「協働」をもとに、地域をしっかりと見つめ作っていく公民館こそ「わがまちの公民館」として愛される存在になり得るのではないだろうか。それは、とりもなおさず「職員・協力員のやる気」にかかっている。

# H O T N E W S

## 掲 示 板

### 関プロ全国大会開催

今年度の第55回関東甲信越静公民館研究大会（略称：関プロ公民館大会）は第36回全国公民館研究集会和兼ねて下記により開催されます。

- 1 期日：平成26年10月16日(木)～10月17日(金)
- 2 テーマ：「公民館よ あつくなれ」～時代の変化に対応し、地域との連携を深める公民館をめざして～
- 3 会場：埼玉県熊谷会館他
- 4 参加者：新潟県20名の予定
- 5 表彰：前新潟県公民館連合会長・湯浅康夫氏（新発田市中央公民館長）が全国公民館連合会「功労者」表彰を受賞します。
- 6 その他：大会の詳細は月報11月号で紹介します。



主会場「熊谷会館」

# ひろば

## 「歌をよもう」

燕市公民館運営審議会委員 磯田千恵子

吉田公民館で練習している合唱グループの代表をさせて頂いていただいています。私はもともと音楽好きですが、入会した当初はなかなか上達せず、続けられるかしらと思つたのを覚えていています。

あれから10年。いつのまにか歌が生活の一部になりました。正しい姿勢でお腹から声を出し、唱歌・ナツメロ・ゴスペルなど歌つて、心身共にリフレッシュします。また、ボランティアで地域のイベント参加や施設訪問し、発表しています。そこでは沢山の方々と触れ合い、笑顔と元気を頂きます。その時々、出会った人や仲間との楽しいお喋りで、笑う事が何よりの楽しみです。

歌は私の世界を広げてくれました。最近では音楽以外の場面でもお声を



掛けて頂き、茶の間やサロンなどでボランティアをしています。家庭や仕事から一歩踏み出した所でできた繋がりが、日々の暮らしをとても豊かにしてくれました。こんな繋がりがあちこちで結びついて、地域に活気が生まれるのではないのでしょうか。

今までの出会いに感謝して、これからは私も人と人を繋ぐお手伝いができたらと思います。そして、公民館がそんな出会いのきっかけの拠点であってほしいと願っています。

# 県下公民館ここに集結

心配をよそに、写真に違わぬイケメンが到着ゲートから姿を現しました。

永田さんは、兵庫県のご出身で、私と年齢も近いうえ、互いの娘が今年、高校受験を控えていることなど、親としての共通点も多く、私の息子が今、関西で一人暮らしを始めたことなど、身の上話をしているうちに意気投合し、ホテルまで送迎する車中では、私の馬鹿げた話にお付き合いいただきました。何とも心優しいナイスガイです。

永田さんが理事長を務めるNPO法人プラス・アーツは、活動エリアを中米や東南アジアなど海外にも広がっています。タイには、年間で40回以上も渡航し、子どもたちが楽しみながら防災を学ぶプログラムの普及啓発に努めています。私も、以前にタイに行ったことがあるもので、自然とお互いの旅の出来事の話になります。首都バンコクから車で20分も走れば、水牛が水田を耕す原風景に出会えることや、人々の暮らしぶり、水害のこと、軍事クーデターの話等など。タイは熱帯に位置し、年間を通じて気温が高い国です。普段より一層ビールがおいしく感じます。微笑みの国タイでの失敗談などを披露し合いながら、和やかな雰囲気の中でホテルに到着しました。

永田さんは、仕事終わりや講演後など、時には深夜まで談笑しながらお酒を嗜まれるとのこと。ものに動じず、肝が据わっていきそうな様子や、酒豪よりはまさに豪胆そのものといった雰囲気です。次回お会いした際は、杯を酌み交わすことを約束し合い、ホテルを後にしました。



会場は超満員です

に誘導員は配置しましたが、それ以外の車両誘導は特に行いません。しかし、車はスムーズに駐車し、端から順に駐車場が埋まっていきます。社会教育の大切さをあらわす一風景でした。さすが公民館関係者の集まりです！

7月17日(休)午前10時、開場。県内を4地区に分けた受付に、次々と参加者が進んでいきます。他地域の旧知の友との再会を喜ぶ参加者の姿に、思わずこちらの顔もほころびます。また、皆さんからいただいた「ご苦労さん」のひと言が、私たちの胸にしみます。

無事に式典を終え、いよいよ記念講演です。講師の永田さんが、今まで全国を行脚し、行ってきた防災イベントの実践事例を報告しました。阪神・淡路大震災を契機に発案した「イザ！カエルキャラバン！」は、体験プログラムを受けるとポイントが貯まり、おもちゃと交換できる仕組みをベースに、毛布で作った応急担架のタイムトライアルや、水消火器を使った的当てゲームなど、子どもたちが遊び感覚で防災について学ぶことができる教育プログラムです。難しいテーマを子どもに教えるには、何より「仕掛け」が大事だとのこと。また、地域のイベントに、子どもや学生、NPO等が企画に加わることで、多くの人々が参加するようになり、地域が豊かになっていく。それを後押ししていくことが公民館の役割だと強調していました。いずれのプログラムも、やり方次第ですぐに公民館でも取り組みそうで、参加した皆さんは、やる気を刺激されていた様子でした。

昼食をはさんで、午後からは事例発表です。

ご用意したお弁当は好評でしたが、昼食会場が足りません。隣の総合体育館にもご案内し、お昼を召し上がっていただきましたが、外のベンチで食べていた方も多かったようです。館内外の散策もお楽しみくださいと案内していたものの、それはあくまで

腹ごなし。蒸し暑い日に、館外でお食事いただいた方々に、この場を借りてお詫びいたします。誰からもお叱りを受けることはありませんでしたが、無言の教えと受け止めています。この教示、さすが公民館関係者の集まりです！！

## ふれ太鼓

午後の部を前に、少しでも新潟らしさを感じてもらおうと、アトラクションで、本市西蒲区の越王太鼓を披露しました。プロの和太鼓集団「鼓童」の指導を受け、海外公演もこなす本格派です。空気を揺さぶる和太鼓の音が館内に響きます。すると、自然とあちらこちらから参加者が会場に戻ってきます。演奏が終わる頃には、ほぼ全員が着席し、午後の部の開始を告げる館内放送は、不要に思われたほどでした。はあ、なるほど、ふれ太鼓とはよく言ったものだと感じました。ふれ太鼓は、物事を人々に広く知らせるために打つ太鼓のことで、そもそもは、相撲の興行を告げるために打つ太鼓です。情報機関のなかった江戸時代の名残のようです。太鼓のこのような役割は、今も私たちのDNAに、しっかりと刻み込まれているようです。

事例発表では、県内の公民館などで行われている防災に関する取組が発表されました。村上市中央公民館では、県と連携し、むらかみ市民講座を「新潟地域の津波災害を考える」と題して公開講座として開催。年間約6,000人が受講する出前講座では、受講者に調査した結果、防災に対する市民の関心が高いことが分かり、災害への備えや応急手当等、防災をテーマにした地域の学習機会の必要性を訴えました。このほか、柏崎市からは、平成19年の中越沖地震の経験から、互いの顔が見える地域防災活動に力を入れ、向こう三軒両隣の関係を地域の輪へと広げてきた事例や、上越市からは、中山間地域で行っている「元気の出るふるさと講座」について報告がありました。事例発表を聞いていて、どの公民館もしっかり地域のことを理解しているな、と感じました。やはり、公民館の根っこは、地域と、そこに住んでいる住民の皆さんですね。

## 夢なき者に成功なし

今回の開催地は、聖籠町です。閉会式で、新潟市中央公民館長から聖籠町公民館長に大会旗が引き継がれ、充実した大会にしたいと抱負が述べられました。

大会を振り返り、「災害に強いまちづくりのために」というテーマで講演していただいた永田さんからは、われわれ公民館が防災教育、防災活動に取り組むうえで、大きなヒントをいただきました。事例発表いただいた各市町村の公民館関係者からは、しっかりと公民館が地域に寄り添っている姿を、確認させていただきました。

県公民館大会は、地域で何か成し遂げたいと思っている人たちに、うってつけの場です。やる気の種と、やる気パワーをもらえる場のように感じました。講演も事例発表も、いずれも成功事例です。幕末の志士、吉田松陰に「夢なき者に成功なし。」ということばがあります。正しくは、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」というものです。人は、自らの夢の実現のために、様々な努力をします。成功の基は、夢を持つことにあります。私たちは、自分の夢の実現が、地域を豊かにすると信じ、これからも夢を追い続けていきたいと思います。

おしまいに、お忙しい中、お越しいただいたご来賓の皆さま、県内津々浦々からお集まりいただいた公民館関係者の皆さま、主催の県公民館連合会と事務局の皆さん、そして、大会が盛大に催されるよう運営スタッフとして奔走してくれた各地区公民館長、公民館職員など、ご協力いただいたすべての方々に感謝いたします。



大会旗は聖籠町へ



# 特集

## 第65回新潟県公民館大会・新潟大会を振り返る 震災から節目の年



第65回新潟県公民館大会  
実行委員会事務局  
新潟市中央公民館  
館長補佐 鈴木 利樹

7月17日(木)、新潟市江南区文化会館で第65回新潟県公民館大会が開催されました。今年は、新潟地震から50年、中越地震と7.13水害から10年目にあたります。そこで、今年の公民館大会のテーマを「地域防災力向上のための公民館の役割」としました。私たちが伝承者となり、あのときの記憶を、様々な形で地域の皆さんに伝えることで、日頃からの防災意識を高め、また、万一災害が起こった時は、個人の自覚による「自助」と地域における「共助」、行政の「公助」が揃って手を差し伸べ、つらい思いをする人を一人でも減らしたい、という思いからです。

当日は、県内各地から公民館関係者約430人をお迎えし、大会会場ホールが満席となる大盛況の大会となりました。来賓の皆さまをはじめ、当日お越しいただいた皆さまに、改めてお礼申し上げます。

### 私の夏は…

例年、梅雨明けとともに海に飛び込み、夏祭りとともに、私の夏は終わりを迎えます。私の地元の夏祭りは、漆塗りに金箔仕上げを施し、新潟市民文化遺産にも認定される絢爛豪華な7台の祭り屋台が、雅やかな祭囃子をともなって激しく動き回り、押し合いを繰り返すお祭りです。祭若衆も、一年間抑えてきた気持ちを開放し、ここぞとばかりに意気軒昂に大騒ぎするので、まとめるのが大変です。普段の草食系男子といった現代っ子の姿は、ここにはありません。今年は、Tenyテレビ新潟の「新潟一番！にいがたわっしょい」のコーナーで、内田拓志アナが密着取材してくれたことも大きな刺激となったようで、例年以上に熱く、激しいお祭りとなりました。

秋を迎え、10月になった今、今夏を思い返すにつけ、♪夏祭り 宵かがり 胸のたかなりに合わせて 八月は夢花火 私の心は夏模様〜♪(井上陽水「少年時代」より)といった思いが去来します。

さて、このような私の夏模様、今年は新たな景色、出来事が加わりました。新潟県公民館大会です。

### 全力疾走

先月、内閣改造が行われ第二次安倍内閣が発足しました。日本の将来を見据え、有言実行、政策実現にまい進する「実行実現内閣」として、新たな顔ぶれが揃いました。私たち宮仕えにも、定期的な「改造」が行われます。かく言う私も、今年4月の「人事異動」で中央公民館にやって来ました。生涯学習課以来、6年振りの社会教育現場への復帰です。前任者からの引継ぎ事項の一つに、県公民館大会の運営がありました。「今年の公民館大会は新潟開催です。運営よろしく願います。」と言われても…。人事異動を経験している皆さんなら、私の焦りようも分かりますよね。開催まで3ヶ月ほどしかありません。異動早々、未知の大会運営を任せられ、まず何から手をつけようかと焦りつつも、年度当初の事務処理に終われ、気がつけば既に1ヶ月



永年勤続者表彰おめでとう

が過ぎていました。大会までの大まかなスケジュールは出来上がっていて、会場と記念講演の講師が決まっていたのが救いでした。あと残すところ2ヶ月、全力疾走です。

新潟市には25館の公民館があります。これは諸先輩方の力を借りるしかない、各公民館長に実行委員になってもらい、早速、実行委員会を発足しました。とは言っても、過去に県公民館大会を経験した者は、ほんの一握りです。みんな手探りで役割をこなしていきます。会場設営には何が必要か、昼食の手配は、シャトルバスはいるのか、受付は…など。一般の行政職員ですから、様々な部署を渡り歩きます。中には、このような大会運営とは無縁な部署もあります。しかし、公民館職員は、日頃から事業を企画立案し、参加者を募り、事業を運営し完遂します。事の大小こそあれ、式典の運営に、このような職員の自己完結能力が大いに活かされます。しかも、実行委員は、これら公民館職員を束ねる館長職の皆さんです。連係プレーもびたりと決まります。

2013年にグッドデザイン賞を受賞し、造形美に優れた施設とはいえず、決して大きな会場ではありません。ましてや、梅雨時の開催です。色々な状況を想定し、シミュレーションを重ねます。

台本が完成し、いよいよ大会前日を迎えました。この日は、朝から大会会場へ入り、会場設営と全般を通してリハーサルを行う予定です。まずは、スタッフ全員で、時系列に沿って役割ごとに大会前日と当日の作業内容を確認します。作業項目にオチはないか、資材は揃っているか、手配に抜かりはないか。細部にわたり確認を終え、担当ごとに分かれて準備作業に取り掛かります。それぞれが、より良いおもてなしをするために、と考えて動くので、以降の細かい指示は不要です。それに、公民館職員は、手が早い。といっても、作業が早いと言う意味です。誤解のないように。あつという間に会場設営の作業を終えてしまいました。ステージには、看板や大会旗、演壇、生け花などが設置され、いよいよ大会っほい雰囲気になってきました。午後は、リハーサルです。

県公民館連合会事務局長が総指揮を務め、本番さながらのリハーサルとなりました。例年との大きな違いは、公民館永年勤続者表彰の受賞者が40名以上に上ることです。受賞者が登壇すると、ステージの幅一杯になります。受賞者の動線や立ち位置、誘導など、司会の台本に合わせて、入念に確認を行いました。ステージのスムーズな場面転換や、来賓、来場者へのおもてなしも大事な項目です。

ほぼ会場づくりを完成し、進行スケジュールに微修正を加え、今日の作業を終えました。

さあ、明日はいよいよ大会当日を迎えます。まずは、ここまで遅滞なく、しっかり準備作業を進めて来られたのも、県公民館連合会事務局の大きなご支援と、適確な指示があればこそだったのは言うまでもありません。手前味噌になりますが、公民館に関係する人たちの熱意と能力、底力の一端を垣間見た大会準備となりました。

### 車中秘話

大会前日の私の大事な役割の一つに、講師のお出迎えがありました。記念講演の講師の永田宏和さんは、まちづくりや教育、防災、福祉などの社会の課題と、芸術家やデザイナー等の想像力や発想力をうまくマッチングさせて、問題解決へと導く活動をするNPO法人の理事長を務めています。

伊丹空港を飛び立ち、午後6時過ぎに新潟空港へ到着する予定です。初対面の方をお迎えするのですから、少し緊張もします。到着を待つ間、講師を見ごしたりしないか、どんな人柄かなど頭をよぎります。伊丹からの便が到着して間もなく、そんな私の



ナイスガイ講師の永田さん

# 実践記録

## 199

### シリーズ

## 「つながり」を大切にした Tap の活動

NPO法人Tapは日本でも有数の豪雪地と知られる津南町で活動をしています。

津南町では少子高齢化や過疎化が進み、子どもたちの間では遊び方の変化もあり、人と人とのつながりの希薄化が懸念されています。

そこで、Tapでは「つながり」を大切に「人づくり」「まちづくり」「健康づくり」に取り組んでいます。今回はその中から4つの事業を紹介します。

### 子ども育成事業



子どもたちが安心して遊べる場所として「この指と一まれ!」を毎週月曜日に開催しています。町内5つの小学校から児童が集り、

学校や学年を越えて活動をしています。主な活動は外遊びで川にいたり、公園や林の中で遊んだりしています。

また、やってみたい気持ちを応援する「放課後クラブ」も行っています。内容は多様で、茶道やクラフト、琴、科学などを地域の指導者の方々から教えてもらっています。



他にもハロウィンやクリスマスでのイベントも行っています。昔から変わらず子どもたちは遊ぶ力や学ぶ力が溢れています。

### エンジョイ ライフ プロジェクト



「ピン!ポン!」毎週月曜日と水曜日に、会場では卓球の音が鳴り響いています。40代から70代までの方々が笑いを絶やさず卓球を楽しんでいます。

運動習慣もつきますが、休憩時間におしゃべりをする時間も大切な時間となっています。

音楽に合わせてダンスをする「エアロビクス」は女性に人気の教室です。リズムカルに動き続けるこ



とで有酸素運動となり、汗を流してストレスの発散にもなっているようです。

他にもロコモティブシンドロームの予防教室や年

に2回の登山を計画して、住民のみなさんの健康づくりを応援しています。

### 文化活動事業

文化活動も盛んです。韓国語を学ぶとともに韓国の食文化を知るために料理教室も開催しています。今までにキムチやチヂミ、チャプチェなどを



つくり、参加者には大好評でした。

また、今年度初めてフラワーアレンジメントにも挑戦しました。同じ花でもアレンジの違いで、自分だけ



の花かごをつくることができました。

### Tapフェス

毎年春分の日に「豪雪地面出し競争」を行っています。これは積もった雪を掘り、地面が出るまでの早さを競うものです。



また、大人が本気でおにごっこを楽しむ「Oni game」

も毎年開催しています。ユニークなイベントを行い、若者が地域の活動に参加するきっかけの一つにもなっています。(江村)







一人ひとりみんな違って  
それがいい♪  
The Voice

平成25年度の柏崎公民館冬  
季講座(ボイトレ講座)の受  
講者により平成26年4月に発  
足しました。

呼吸や発声を重視した練習  
のほか、昔懐かしい歌から大  
流行中の「アナと雪の女王」  
の「Let It Go」ま  
で、さまざまなジャンルの曲  
に「楽しく」挑戦しています。

公民館講座から引き続きご  
指導いただいている板谷圭美  
先生は、歌唱経験がさまざま  
な20代から70代までの老若男  
女12名の会員の「個性」を生  
かした指導をしてくださいま  
す。昨冬の公民館講座スタ  
ト時よりも、一人ひとりの歌

一人ひとりみんな違って  
それがいい♪  
The Voice

唱力の向上を実感できるよ  
うになりました(板谷先生、あ  
りがとうございます!!)。

平成27年3月の発表会が当  
面の目標ですが、これからも  
一人ひとりが成長できるよ  
うにがんばります!!

柏崎市 The Voice  
竹内 崇史 記



自由に描く心絵

絵手紙もも

「絵手紙もも」というサー  
クル名は、刈羽村の名産であ  
る砂丘桃から名づけました。  
先生と生徒十八名、月二回活  
動しています。最初は「困っ  
たね。どうやって描いていい  
のか、わからない」と友達に

言う。「だから教室に来てい  
るんじゃない」とお互い励ま  
し合って、早くも四年。やっ  
と少しずつ描けるようになって  
きました。毎年、秋には刈  
羽村の文化祭で展示会と体験  
教室を行っています。見に来  
てくれた方々が「上手だね」  
と言ってくれると下手でも  
ちよつと嬉しくなります。絵  
手紙は「下手でいい、下手が  
いい」という言葉に救われて  
描いてきました。描くことに  
より、自分を表現できるとこ  
ろが絵手紙の魅力です。この  
魅力たっぷりの絵手紙をサー  
クルのみんなでガヤガヤと楽  
しく描いています。



刈羽村・絵手紙もも  
久保田美代子 記

4月から弥彦村教育委員会に配属となった橋芳延さんをご紹介します。

これまで建設企業課や住民福祉課など、様々な部署で経験を重ねてこられた橋さん。実は教育委員会で仕事をされるのは、3回目になります。教育行政においても、通算10年のベテランです。

文化会館の管理運営から人権教育、文化財の担当など、



弥彦村教育委員会  
課長補佐 橋 芳延さん

様々な業務を担われ多忙な毎日ではありますが、常に焦らず、穏やかな姿勢で着実に対処しております。元来の誠実な人柄に経験の重み加わり、頼もしい限りです。

これからも、弥彦村の社会教育をリードするご活躍を期待しております。

(弥彦村教育委員会 山野上良輔 記)

4年目を迎えたベテラン、笹川さんをご紹介します。「運動会が続いている潟東はすごい！」と地域愛たっぷりに、地域の方と一緒にどろんこカップ・大運動会・駅伝大会など、地域のメインイベントを担っています。大事業が多いため体力的にも厳しく、仕事量も多い…にもかかわらず、潟東を盛り上げようという夢は広がり、新しい事業に積極的です。

今年は「潟東すい一つコン



新潟市潟東地区公民館  
主査 笹川 智子さん

テスト」を企画。さらに、コミ協主催の「かもん！カモねぎまつり」を盛り上げるため、「カモねぎの唄」をなんと作詞作曲。♪かもんかもん かもかもねぎまつり〜♪のさびの部分は1度聞くと耳に残り、つい口ずさんでしまう名曲です。12月7日のカモねぎまつりでの披露を目指し、現在がんばってられます。

(新潟市潟東地区公民館 太子 角恵 記)

素顔  
拝見

恵贈資料紹介

「こすど地区公民館報」第717号

「こすど地区公民館報」は旧小須戸町るときから発行を重ね、9月現在で717号になりました。

第1号は昭和24年10月に発行されています。新潟県公民館月報の第1号発行が昭和28年ですからそれより4年も早く発行されたことになりました。ちなみに、社会教育法の施行が昭和24年ですからその年にはもう第1号が発行されたことになりました。以来65年にわたり発行を重ねたことは全国に例がなく(全公



連事務局談)、歴史の記録・資料ということからも大変貴重なものになっています。現在の紙面構成は、A3用紙1枚の表裏に「公民館事業紹介」

小須戸地区公民館

「ちよこつと一言」「ありがとう公民館」「シリーズ 今、子どもたちは」「文芸欄」で、豊富な記事が毎回掲載されています。編集は、市民の編集委員5名と担当者で行われて毎月中旬に発行されます。

問い合わせ: 小須戸地区公民館  
〒956-0101  
新潟市秋葉区小須戸117番地  
TEL 0250-38-2234  
FAX 0250-38-3041

お元気ですか



「會津八一に魅せられて」中野 隆一 (胎内市)

新潟市の工業高校を卒業し就職したところが胎内市(旧中条町)の天然ガス化学工場、気が付けば定年退職、46年の会社生活でありました。

まもなく70歳、そのような私が10年程より會津八一を顕彰する団体、中条會津八一会の活動に参加するようになりました。

胎内市に縁のあった日本を代表する書家であり、歌人、東洋美術史家、さらには教育者として、その存在感を増す一方の會津八一を一人でも多くの皆様を知っていただく活動を公民館を拠点に進めております。

さまざまな活動を行っていますが、目下は會津八一が昭和20年4月の東京空襲で罹災し、胎内市に疎開したお養女のキイ子を亡くしてその悲しみを詠った歌集「山鳩」の一首を刻んだ歌碑をキイ子の枕経を読んだ故渡辺貞乗さんの柴橋庵の境内に建てるべく活動を進めております。

\*「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後も元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

Network ネットワーク

キリン・シルバー「力」応援、子育て応援事業

公益財団法人キリン福祉財団では、高齢者や子育てのボランティアの応援事業として該当する団体に助成を行うための公募をしています。

1 キリン・シルバー「力」応援事業

高齢者が、地域のために、その知識・技術・経験を活用するグループのボランティア活動への助成

(1)助成金額 1件(1団体) 30万円 (2)応募期間 9/19~10/31

2 キリン・子育て応援事業

地域における子育てにかかわるボランティア活動への助成

(1)助成金額1件(1団体) 30万円 (2)応募期間9/19~11/9

問い合わせ 公益財団法人 キリン福祉財団事務局

東京都中野区中野4丁目10-2

中野セントラルパークサウス TEL03-6837-7013

\*応募要項等は同財団のホームページに掲載

100年先の日本のために

豊かな水を育み国土を守る森林は、「緑の社会資本」であり、地球温暖化の防止にも大きな役割を果たしています。

私たちは、その恩恵を後世の人々が享受できるよう、長期的視点に立った森林づくりを推進しています。

新潟県市町村林政振興協議会

会長(村上市長) 大滝 平正

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事

務局長のつぶやき

そろそろ衣替えしようかなと思ってるのに急に暑くなったり、なかなか決心がつかない9月が終わるにつれて、先日、信州へ20人で旅行へ行きました。善光寺での会話。「参拝をしないで土産物店に行くなんて何というばちあたり

だ「3人だけでお戒壇を廻る「暗いネー。真っ暗で後先が全くわからない」

「心が汚れていない者はいつまでも光が見えないのだね」

「...」  
年度の前期が終了して、10月からは後期のスタートです。前期の反省を生かして心を入れ替えて頑張ります。(田原)